

令和 6 年度北河内病院連絡会結果（概要）

開催日時：12月24日（火） 場所：守口保健所

出席病院：別添一覧

1 地域医療構想の推進に関する意見

特になし

2 病院の将来プランに対し意見のあった病院とその回答

（1） 公立・公的病院

特になし

（2） その他、民間病院等

特になし

3 その他

【地域医療構想の役割分担（機能分担）について】

○課題として、医師の確保、診療科の拡充、建物の老朽化、慢性期病院の死生観の問題や看取りの仕方の変化等が挙げられ、それぞれの病院の課題を個別に完結するのではなく、地域医療の役割と課題について共有し、連携しながら進めていく必要がある。

○機能分担は比較的順調に進められているが、いずれの病院も人材不足が一番の課題。医師、看護師だけでなくソーシャルワーカーや医療事務職についても常に確保が難しい。また、人材育成も各病院が実施することは難しい状況。生産年齢人口が減少する中、医療に携わる人材は減少しており、現場の負担や責任が大きい。

○人材に限りがある中で、引き続き医療従事者の確保を充実させるとともに、内容によっては当番制により病院間連携・役割分担を進めていくことが必要。

- 急性期、回復期機能を併せ持つ病院は、自宅から入棟と自宅への退棟がほぼ同数で、自院の中で入院患者の急性期から回復期機能を自己完結できているところが多い。療養病床に特化した病院は、看取りなどによる死亡退院や特養などの介護施設への退棟が多かった。また、救急病院からは、自宅と他院等への退棟が多かった。
- 地域急性期、ケアミックス、回復期の病棟は、平均在院日数や入棟・退棟経路データからおおむねその機能を果たしている。

【高齢者の医療について】

- 地域包括医療病棟を運営する病院では、高齢者の受け入れは、複合的な疾患を抱えているため転院に時間がかかる。スムーズに転院調整ができる仕組みづくりが必要。
- 高齢者の救急搬送が多いが、急性期病院では在院日数の関係で在宅に戻りにくく、介護保険の認定までに時間を要し入院が長期化してしまう。また、独居高齢者については自宅に戻りにくい等の課題がある。
- 病院と介護関係者が顔の見える関係をつくり、連携していくことが大切。2040年に向けて、病院でも訪問看護師の導入を考えていく必要がある。
- 80歳以上の高齢者救急等では肺炎や骨折が多く、退院先の調整が難しい。今後の高齢化に備え、地域での役割分担が必要。

以上